

JIS

ステンレス鋼板の超音波探傷検査方法

JIS G 0802 : 2016

(JSSA/JSA)

平成 28 年 11 月 21 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準第一部会 金属・無機材料技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	長 井 寿	国立研究開発法人物質・材料研究機構
(委員)	粟飯原 周二	東京大学
	伊吹山 正 浩	一般社団法人日本ファインセラミックス協会 (デンカ株式会社)
	榎 本 正 敏	一般社団法人軽金属溶接協会
	太 田 幸 男	高圧ガス保安協会
	鎌 土 重 晴	一般社団法人日本マグネシウム協会 (長岡技術科学大学)
	吉 良 雅 治	一般社団法人日本産業機械工業会
	倉 品 秀 夫	公益社団法人自動車技術会 (三菱自動車工業株式会社)
	里 達 雄	東京工業大学名誉教授
	篠 崎 和 夫	東京工業大学
	田 中 一 彦	一般社団法人日本電機工業会
	田 中 龍 彦	東京理科大学名誉教授
	中 村 一	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	長谷川 隆 代	昭和電線ホールディングス株式会社
	藤 田 篤 史	日本冶金工業株式会社
	水 沼 涉	一般社団法人日本溶接協会
	山 口 富 子	九州工業大学
	山 崎 裕 一	一般社団法人日本建設業連合会 (株式会社銭高組)
	吉 田 仁 美	一般財団法人建材試験センター

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 10.7.20 改正：平成 28.11.21

官 報 公 示：平成 28.11.21

原 案 作 成 者：ステンレス協会

(〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 TEL 03-3669-5691)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

審議専門委員会：金属・無機材料技術専門委員会 (委員長 長井 寿)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
3A 一般事項	2
4 探傷方式	2
5 検査技術者	2
6 探傷装置	2
6.1 探傷装置の構成	2
6.2 探傷器	3
6.3 探触子	4
6.4 送り装置, 探触子追従装置, 自動警報装置, マーキング装置及び記録装置	4
6.5 試験片	4
7 探傷方法	4
7.1 探傷形式	4
7.2 探傷時期	5
7.3 探傷面	5
7.4 接触媒質	5
7.5 走査方法	5
7.6 探傷箇所(走査箇所及び範囲)	5
8 探傷感度の適用・設定及び対比線の設定	8
8.1 一般事項	8
8.2 探傷感度の適用	8
8.3 距離振幅特性曲線を用いた評価方法の適用	8
8.4 探傷感度の設定方法	8
8.5 対比線の設定	9
9 きずの分類	9
9.1 きずの分類及び表示記号	9
9.2 きずの広がり及び指示長さ	10
9.3 きずの記録	11
10 きずの評価方法	11
10.1 評価対象きず	11
10.2 評価のための換算	11
10.3 重きず(×きず)個数の評価	11
10.4 きず1個の最大指示長さの評価	12

	ページ
10.5 密集度の評価	12
11 きずの判定基準	12
12 試験報告書	12
附属書 JA (規定) 二振動子垂直探触子用 E 形対比試験片 (RB-E-S)	14
附属書 JB (規定) 感度補正用試験片 (RB-S)	15
附属書 JC (規定) 二振動子垂直探触子の性能	17
附属書 JD (規定) 距離振幅特性曲線の作成及びエコー高さの区分方法	19
附属書 JE (参考) JIS と対応国際規格との対比表	21
解 説	24

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、ステンレス協会 (JSSA) 及び一般財団法人日本規格協会 (JSA) から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS G 0802:1998** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

白 紙

ステンレス鋼板の超音波探傷検査方法

Ultrasonic testing of stainless steel plates

序文

この規格は、2016年に第2版として発行されたISO 17577を基とし、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、附属書JEに示す。

1 適用範囲

この規格は、厚さ6 mm以上、200 mm以下のステンレス鋼板に対する超音波探傷検査方法について規定する。

この超音波探傷検査方法は、ニッケル板、ニッケル合金板及び超合金板にも適用する（以下、ステンレス鋼板、ニッケル板、ニッケル合金板及び超合金板を総称して、製品板という。）。。

また、受渡当事者間の協定によって、厚さ6 mm未満又は200 mmを超える製品に、適用してもよい。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 17577:2016, Steel—Ultrasonic testing of steel flat products of thickness equal to or greater than 6 mm (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

- JIS B 0601** 製品の幾何特性仕様（GPS）—表面性状：輪郭曲線方式—用語、定義及び表面性状パラメータ
- JIS B 8266** 圧力容器の構造—特定規格
- JIS G 0431** 鉄鋼製品の雇用主による非破壊試験技術者の資格付与
- JIS G 4304** 熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
- JIS G 4305** 冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯
- JIS Z 2300** 非破壊試験用語
- JIS Z 2305** 非破壊試験技術者の資格及び認証

注記 対応国際規格：ISO 9712, Non-destructive testing—Qualification and certification of NDT personnel (MOD)